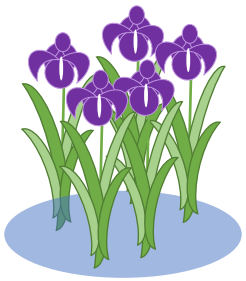
環境省

「令和７・８年度良好な水環境保全・活用モデル事業」採択

「茂林寺沼湿原」保全・活用100年プロジェクト





令和８(2026)年１０月１５日

館林市教育部

(文化振興課文化財係長　吉村 昭和)



1. 茂林寺沼湿原の概要と課題

■茂林寺沼及び低地湿原（茂林寺沼湿原）

❶群馬県指定天然記念物

・指定：昭和３５(1960)年３月２３日
・所在：群馬県館林市堀工町1169番地　他
・面積：55,972㎡（沼13,728㎡＋湿原・草原42,244㎡）
・植生：水生植物(コウホネなど)
　　湿原植物(ノウルシ・カキツバタなど) 他



❷特徴

・館林市南部にあり**関東平野に奇跡的に残された貴重な低層湿原**として貴重動植物の生息地になっている。
・令和元(2019)年に茂林寺沼湿原を含む市内５つの沼が「里沼」として**文化庁日本遺産に認定**された。

❸課題

・平成３(1991)年の茂林寺川流路付替え工事で湿原への水が断絶され、**水量不足による乾燥化・草原化が進行し消滅危機に。**（現在は井戸水が唯一の水源）
・住宅地が近いためヨシ焼きができず、年間で約15万トンのヨシを刈取・廃棄している。また除草や木道管理などで**膨大なコストがかかり、湿原本来の生態系や景観の維持が危機的な状況**にある。

JAPAN HERITAGE
日本遺産
館林の里沼





2. 茂林寺沼湿原におけるこれまでの取組

■行政【館林市】の取組

・《保全》木道整備、ヨシ刈・除草、井戸・水量管理 等
・《活用》自然学習会開催や普及パンフレット作成 等





■民間の取組

・平成１７(2005)年～「茂林寺沼の自然を守る会」設立
➡定期的な清掃・除草活動による湿原健全化・貴重動植物保護

個別で動いていた「草の根の取組」が 令和元(2019)年の日本遺産「里沼」認定により変化

■【館林市】

・関連計画の策定　　・新規井戸の掘削
令和５(2023)年「茂林寺沼湿原保護保全のための計画(第Ⅱ期)」
令和６(2024)年「館林市文化財保存活用地域計画」文化庁認定

■【館林市「日本遺産」推進協議会】

・パンフレット作成＋説明板設置　・ワークショップ

■【茂林寺沼の自然を守る会】

・参加者拡大(民間企業や高校・大学生、福祉作業所等)

■【高校生・大学生】　令和３(2021)年～

・ヨシストロー＆キクラゲ、カキツバタソーダ開発

■【地域活動者】　令和４(2022)年～

・ヨシを材料とする商品開発・ワークショップを展開

単発的な作業・普及活動では限界













3. 環境省モデル事業の実施



■環境省「令和７年度良好な水環境保全・活用モデル事業」
「茂林寺沼湿原」保全・活用１００年プロジェクト

- 団体：館林市教育委員会（令和８年度～組織変更により館林市教育部）
- 概要：日本有数の低層湿原であり、消滅の危機に瀕している茂林寺沼湿原において、湿原利害関係者を含めた地域の多様な主体との連携プラットフォームである「茂林寺沼湿原１００年会議」を構築する。魅力発見調査、維持管理トライアル等の活動を通じ、地域ぐるみで湿原(里沼)の再生を目指す。
- 実施：⑴茂林寺沼湿原１００年会議の構築
  ⑵地元小学生のフィールドワークによる魅力発見調査と「茂林寺沼タイムス」・貴重動植物解説マップの作成
  ⑶地元ボランティアによる里沼の保全、維持管理トライアル
  ⑷水質浄化に向けた水流調査・実証実験等の実施
- 事業費：３００万円(モデル事業委託金)
- 継続：令和８年度も採択を受け、継続実施中



➡地域全体で水環境を守り、活かす仕組みづくりへの第一歩を踏み出す

➡草の根の取組の支援を行いながら、次世代へつなぐ仕組みへの転換を目指す

4. 100年プロジェクトの目的・事業計画

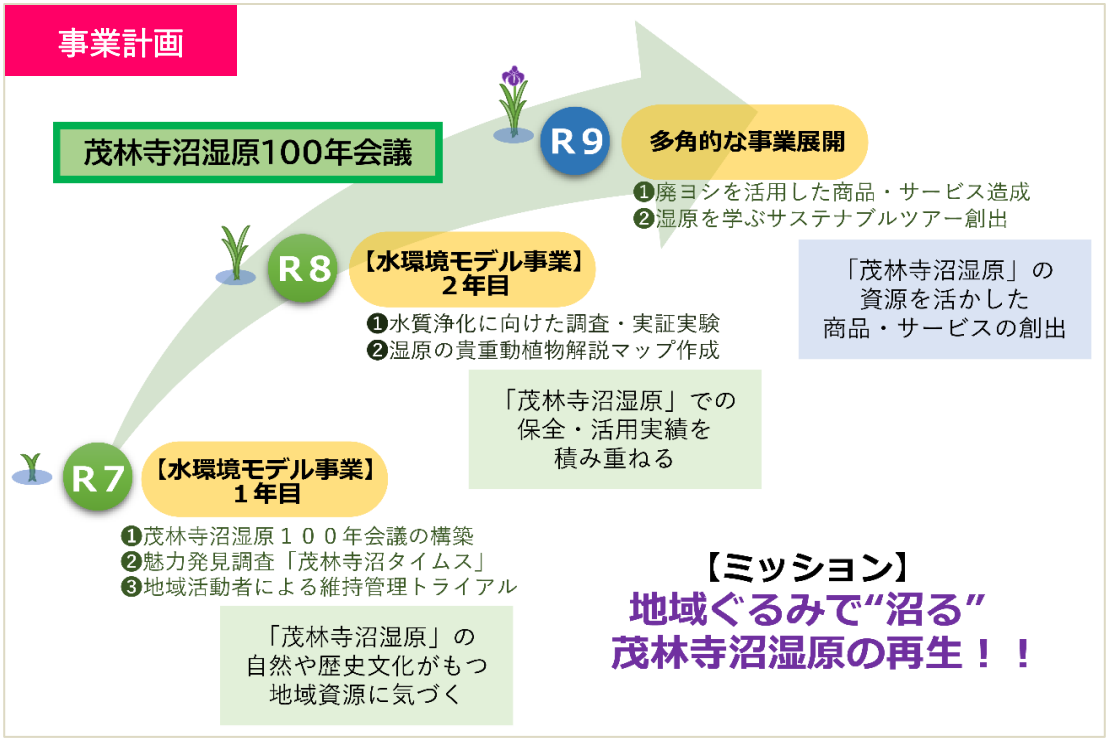
■目的：「地域ぐるみで“沼(ぬま)る”　茂林寺沼湿原の再生！！」

➡ 50･100年後も茂林寺沼の豊かな生態系と景観を次世代に引き継ぐための「持続可能な保全･管理の仕組み」を地域社会の中に根付かせる

・日本有数の低層湿原「茂林寺沼湿原」の健全化を図るため多様主体との連携体制構築や、魅力発見調査や維持管理トライアルに取組む。

・廃ヨシ活用商品やエコツーリズム創出を図り、１００年後の茂林寺沼湿原継承に向けて、地域ぐるみでの「里沼」(人が適度に関わることによって良好な環境が維持される沼)の再生事業の展開や自走サイクル確立を目指す。

・地域ぐるみで茂林寺沼の１００年後を構想しながら、再生するための各種事業に多様な主体が参画し、“沼る”(＝沼にハマるように夢中になる)将来を目指す。



5. 100年プロジェクトの実施体制

■実施体制

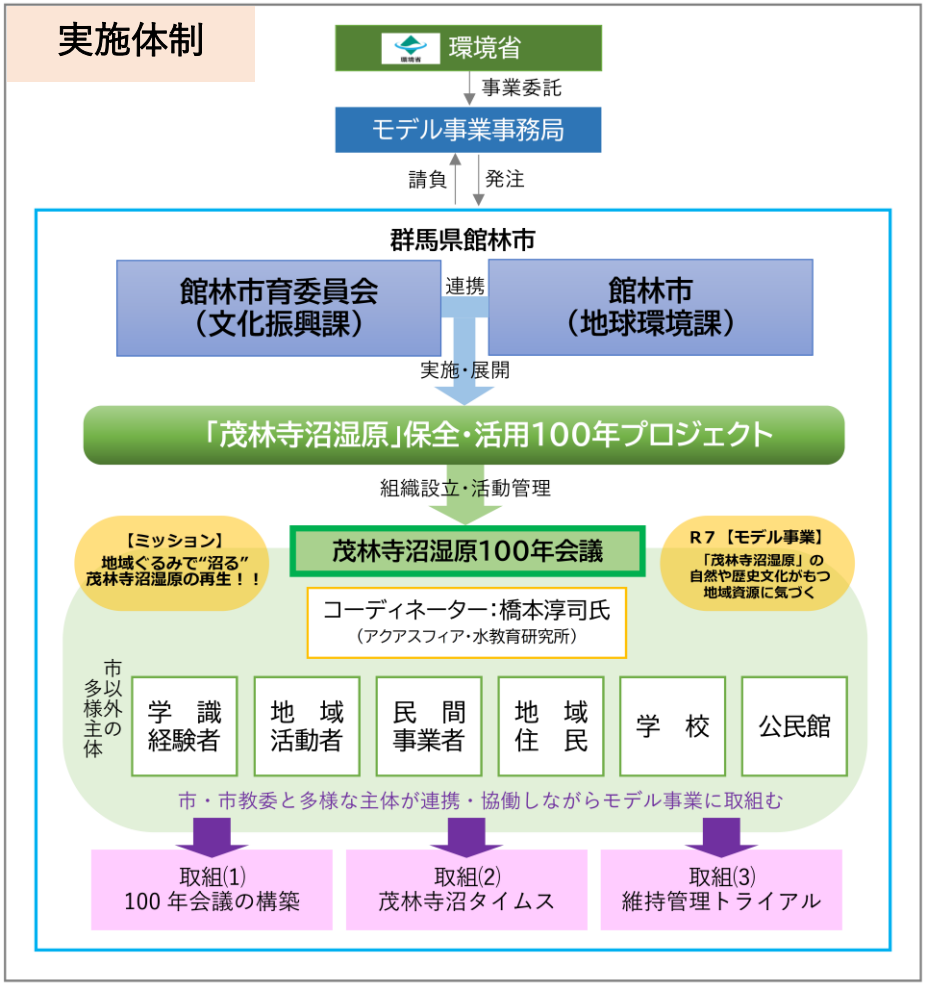
・水ジャーナリストであり、日本遺産「里沼」地域プロデューサーである橋本淳司氏[アクアスフィア・水教育研究所(以下、アクアスフィア)]を全体コーディネーターとして、事務局である館林市教育部(文化振興課)と館林市(地球環境課)が連携しながら、事業実施に取組んだ。

・館林市教育部を主体として、環境省やモデル事業事務局と調整を行ったほか、専門家や地域活動者、民間事業者、市民や学校など「茂林寺沼湿原１００年会議」を立ち上げ、行政と民間の協働体制を構築した。

■定期ミーティングによる情報共有

・毎週水曜に館林市教育委員会とアクアスフィア間で「定期ミーティング」を行った。またアクアスフィアは茂林寺沼湿原維持管理活動や市立美園小学校との調整にも積極的に足を運び、取組の円滑化を図った。

・毎月第３水曜の10:00～11:00で環境省・モデル事業事務局間で「月例ミーティング」(オンライン)を実施し、事業進捗状況を随時共有しアドバイス等を受けた。



6. 令和７年度事業概要

■テーマ：茂林寺沼湿原の自然や歴史文化がもつ地域資源に気づく

取組１
茂林寺沼湿原１００年会議の構築
《「場」と「人」と「方向性」をつくる》

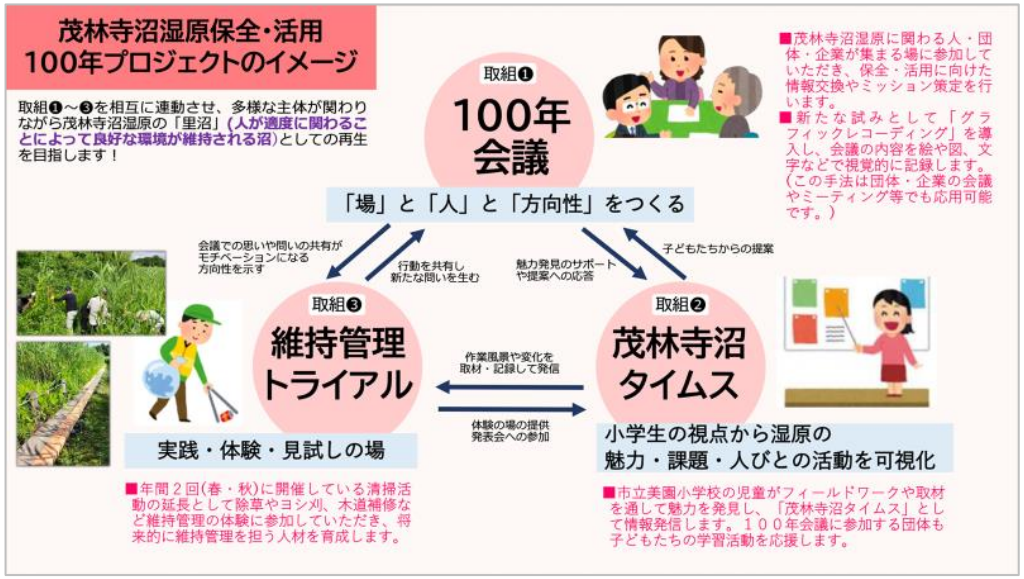
・地域の多様主体が参画する「100年会議」を構築し、保全・活用に向けた情報交換やアクション策定を行う。

取組２
魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」
《小学生視点で魅力・課題・活動を可視化》

・地元小学校児童がフィールドワークや取材を通して湿原の魅力を発見し「茂林寺沼タイムス」として情報発信する。

取組３
地域活動者による維持管理トライアル
《実践・体験・見試しの場》

・ヨシ刈や外来種駆除など維持管理活動の体験会を実施し、将来的に保全・活用を担う人材を育成する。







6-1. ［取組1］茂林寺沼湿原100年会議の構築

■実施内容：

《「場」と「人」と「方向性」をつくる》

・地域の多様主体が参画する「１００年会議」を構築し、保全・活用に向けた情報交換や将来像とアクション設定を行った。

❖8/30㈯「第１回会議」２４人
❖11/9㈰「第２回会議」１５人
❖1/31㈯「第３回会議」２５人





・参加者…茂林寺住職、地元区長、専門家(植物・昆虫)、高校(教諭・生徒)、清掃活動参加団体、どんど焼き保存会、ＮＰＯ法人、地域活動団体、社会福祉法人、民間事業者、青年会議所、一般社団法人

■実施成果：

・活動者同士の情報交換や対話を通じて、２０年後(2045年)の茂林寺沼湿原のあるべき姿を描き、その実現に向けて能動的なアクションを設定することができた。
・会議の結論や合意を整理するだけでなく、話し合いの流れや残された問いを可視化するために用いられグラフィックレコーディングを導入。未完の思考プロセスを共有する記録として扱われていたことで、次回以降の議論や関係者間の理解につながる役割を果たした。
・第３回会議で出た「❶保全活動」「❷続くしくみ」「❸関わるきっかけ」「❹場を整備」「❺資源循環」の５つの方針に基づくアクションは、翌年度での展開を図る。



6-2. ［取組2］魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」

■実施内容：

《小学生の視点で湿原の魅力・課題・活動を可視化する》

・地元の館林市立美園小学校４年生(児童５８人)の総合学習の時間と連動し、フィールドワークや取材を通して湿原の魅力を発見し、「茂林寺沼タイムス」として情報発信。

- ❖7/17㈭　「出前授業(レクチャー)」
- ❖9/19㈮　「フィールドワーク」
- ❖11~12月　「個人タイムス」作成
- ❖1/15㈭　「出前授業(調べ学習)」
- ❖1/21㈬　「出前授業(ゲストティーチャー)」
- ❖1～2月　「グループタイムス」作成
- ❖2/10㈫　「里沼オンラインサミット」で発表
- ❖3/24㈫～5/6㈬ 館林市立資料館Ｘで紹介
- ❖7/25㈯～8/30㈰無印良品館林美園店で展示











■実施成果：

・次世代の担い手育成として、地元小学校児童によるフィールドワークやゲストティーチャーとの交流を通して湿原の特徴や魅力を「茂林寺沼タイムス」として発信し、市民全体の茂林寺沼湿原の保全・活用意識を高めることができた。

・１００年会議参画者がゲストティーチャーとして訪問したり、１００年会議や維持管理トライアルの活動が「タイムス」の内容と連動でき児童の学びを深めることができた。

6-3. [取組3]地域活動者による維持管理トライアル

■実施内容：

《実践・体験・見試しの場》

・ヨシ刈や外来種駆除など維持管理活動の体験会を実施し、将来的に保全や活用を担う人材を育成する。

- ❖10/4(土)　第１回「キショウブバスターズ」
- ❖11/23(日)　第２回「ヌマヨシカッターズ」
- ❖1/11(日)　第３回「ドンドファイヤーズ＆シツゲンドクターズ」
- ❖2/14(土)　第４回「バンブーカッターズ」

・単なる作業労働とならないよう、活動の目的やスキル伝達、関連するワークショップ等を実施したほか、各回ごとにふりかえりや参加者同士の対話の時間も設けた。
・各活動ごとに動画を撮影し、フルバージョン(約5分)、ショートバージョン(約1分)をYouTube日本遺産「里沼」ちゃんねるにて公開し、活動内容共有とノウハウの蓄積を図った。
・第２回トライアル終了迄に「茂林寺沼湿原 維持管理活動指針(案)」を作成し、生態系への配慮や安全対策等を講じた。







■実施成果：

・今年度実施した４つの活動とも、参加者の評価が高く「楽しかった」という意見だけでなく、学びや参加者同士の交流を生むことができた。
・将来的なサステナブルツアー造成の試行を行い、令和８年度における年間５回の活動プログラムを組むことができた。
・更に深く維持管理(除草・ヨシ刈・木道補修等)に関わるチーム「シツゲンドクターズ」を発足させることができた。(会員32人　※令和８年10/15現在)

7. 令和８年度事業概要

■テーマ：茂林寺沼湿原での保全・活用実績を積み重ねる

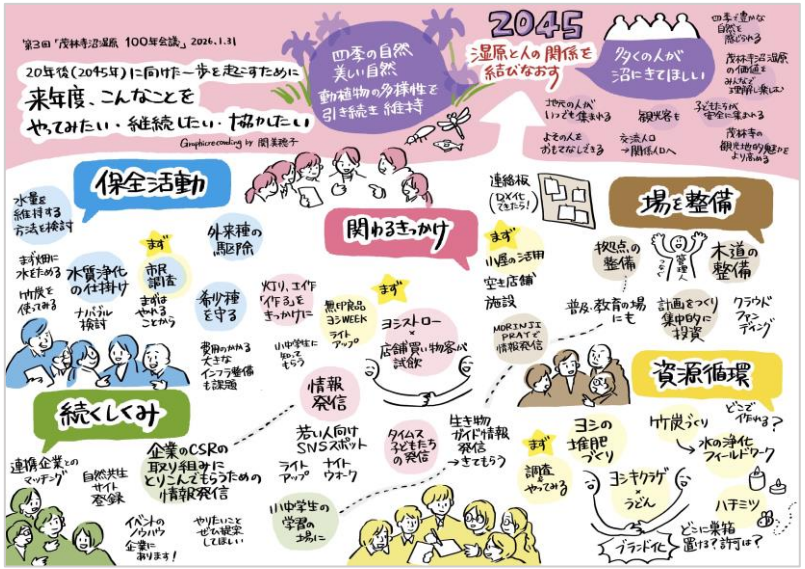
取組１
水質浄化に向けた調査・実証実験

・通年での市民参加型の水質調査を実施し、湿原の水環境の実態把握や水質悪化原因の特定に向けたデータを蓄積する。地域活動者や高校生等と協働による「小さな自然再生」による浄化実験にも取組む。



取組２
湿原の見所マップ・ルート作成

・スマホアプリなどを使い、湿原の魅力のＤＸ化を進め四季ごとの見所マップ・ルートづくりを行う。



取組３
１００年会議アクションの実施・展開

・令和７年度の「１００年会議」で定めた、具体的アクションを実施・展開する。会議も引続き開催し、活動者同士の交流や情報交換の場とする。

取組４
事業収益化のパイロット試行

・茂林寺沼湿原をフィールドとした自然再生ツアーや企業研修等を試行的に実施し、顕彰を行う。

7-1. ［取組1］水質浄化に向けた調査・実証実験

■実施内容：

・湿原の乾燥化・水環境悪化の原因究明と、水質浄化に向けた具体的な調査・実験を専門家の指導のもとで実施している。
・毎月１回、茂林寺沼湿原周辺１０箇所で採水したのち分福公民館や館林市文化会館でパックテスト等による市民科学レベルでできる水質検査を実施。

❖第１回　4/19(日)
❖第２回　5/17(日)
❖第３回　台風中止
❖第４回　7/19(日)
❖第５回　8/1(土)
❖第６回　9/5(土)
❖第７回　10/10(土)

・参加者…群馬県立大泉高校植物・微生物バイオ研究部員、アクアスフィア・水教育研究所、市文化振興課、一般市民ほか






■実施成果：

・湿原への水流入地点だけでなく、湿原内部を含めた複数地点で調査を行い、水質の分布を面的に把握できた。
・市民レベルで実施可能な機材・手法を採用し、“小さな自然再生”で、継続的に湿原環境を把握できる仕組みを構築できた。
・単なる測定に留まらず、水の流れと水質の関係を把握し、自然浄化の仕組みを活用した改善策検討に向けてデータを蓄積することができた。
・地元「どんど焼き保存会」も参画の意向を示すなど、市民の興味・関心を高めることにつながった。

2026年4月19日　調査者　天候：晴　気温・25度　前日の雨　なし

地点	地点名	水の色	におい	水温(℃)	COD(mg/L)（化学的酸素要求）	DO(mg/L)（溶存酸素）	pH（水素イオン濃度指数）	PO_4^{3-}-P(mg/L)（りん酸態りん）	NH4-N(mg/L)（アンモニウム態窒素）	NO2-N(mg/L)（亜硝酸態窒素）	NO3-N(mg/L)（硝酸態窒素）
①	住宅地側溝	透明	少し	24	10	7	6	0.1	2	0.1	2
②	生活排水流入後	透明	少し	24	13	7	6	0.2	2	0.1	2
③	小沼	茶色	少し	24	20	3	6	0.1	1	0.02	0.5
④	湿原内水路流出後	透明	なし	24	13	4	6	0.1	2	0.1	2
⑤	茂林寺川（排出口上流）	透明	なし	21	13	7	7	0.1	1	2	2
⑥	茂林寺川（排出口下流）	透明	なし	21	10	7	6	0.05	0.5	1	1
⑦	湿原中央	濁り	少し	25	13	4	7	0.1	0.5	0.02	0.5
⑧	湿原下流（茂林寺橋）	濁り	少し	25	13	7	6	0.05	0.5	0.02	0.5

2026年5月17日　調査者　天候：晴　気温・20.5度　前日降雨　5月14日1.5mm

地点	地点名	色	におい	水温(℃)	TDS(mg/L)（総溶解固形物）	COD(mg/L)（化学的酸素要求量）	DO(mg/L)（溶存酸素）	pH（水素イオン濃度指数）	PO_4^{3-}-P(mg/L)（りん酸態りん）	NH4-N(mg/L)（アンモニウム態窒素）	NO2-N(mg/L)（亜硝酸態窒素）	NO3-N(mg/L)（硝酸態窒素）
①	住宅地側溝	青っぽい	こげたようなにおい	–	288	10	7	7	0.5	2	0.05	1
②	生活排水湿原流入部	黄色っぽい	わずかに水槽のにおい	–	292	13	3	7	0.1	5	0.05	1
③	水たまり（湧留）	にごり	石油のような、ゴミのような	–	294	13	7	8	1	2	0.005	0.2
④	湿原内水路	透明	こげたようなにおい強め	–	188	5	7	6	0.2	1	0.1	2
⑤	茂林寺川（排出口上流）	透明	わずかに水槽のにおい	–	195	10	7	6	0.02	1	0.2	2
⑥	茂林寺川（排出口下流）	透明	においなし	–	180	10	7	6	0.05	1	0.2	2
⑦	湿原中央	黄色っぽい	ドブやヘドロのにおい	–	196	10	4	7	0.1	1	0.02	0.5
⑧	湿原下流（茂林寺橋）	黄色っぽい	水槽のようなにおい	–	194	10	7	6	0.05	1	0.02	0.5
⑨	井戸Aの水	透明	生臭い	–	179	10	7	7	0.05	1	0.02	0.5
⑩	井戸Bの水	透明	牡蠣やブルーギルのにおい（生臭い）	–	192	10	7	6	0.1	2	0.01	0.2

7-2. ［取組2］湿原の見所マップ・ルート作成

■実施内容：

・保全だけでなく「賢い利用(ワイズユース)」を促進すため、市民や観光客が環境負荷をかけずに湿原を楽しめる見所ルートやマップを整備した。

・地元の群馬県立館林商工高校「里沼ＰＲ班」(６人)と連携してスマホアプリ「NaviTabi」を使った見所ルートを作成した。

- ❖6/16㈫　概要レクチャー
- ❖6/30㈫　NaviTabiアプリ体験(茂林寺沼湿原)
- ❖7/8㈬　フィールドワーク　→コース検討
- ❖7/17㈮　夏バージョンコース作成
- ❖7/30㈭　夏バージョンコース完成

■実施成果：

・季節ごとに変化する湿原の動植物や景観、人の関わりなど、通年での見所データを市民参加型の取組で集積することができた

・「見る湿原」だけでなく「守りながら学ぶ湿原」をコンセプトに貴重な動植物の生育を妨げないルートや維持管理に関わる「人の活動」を伝えることができた。

・説明看板や案内ガイド以外で、来訪者がいつ訪れても湿原の魅力を伝える手法を検討することができた。





NaviTabi　App Store　Google Play





7-3. ［取組3］100年会議アクションの実施・展開

■実施内容：

・初年度に構築した「１００年会議」のネットワークを活かし、参加団体が自発的に行うアクションを地域全体へ展開している。

・「１００年会議」の開催

- ❖8/1(土)　第４回
- ❖10/31(土)　第５回(予定)
- ❖1/30(土)　第６回(予定)

・「１００年会議」アクションの具体的展開

《活動者による提案事業》

❶茂林寺沼湿原フェスタ
❷シツゲンリソース・アート
❸シツゲンドクターズ









■実施成果：

・多様主体が連携し、湿原の生態系を守るための保全活動やヨシや竹など湿原周辺の自然資源を利活用を図ることができた。

・湿原の価値や１００年プロジェクトの取組を広く発信し、市民や来訪者が関わる機会を増やし、地域ぐるみで湿原を支える機運を醸成している。

7-4. ［取組4］事業収益化のパイロット試行

■実施内容：

・湿原の生態系や保全の重要性を広く伝え、湿原の価値の可視化と理解促進を図る体験型プログラムの開発を目指し、ツアーや企業研修を通じた収益化の可能性を検証し、湿原保全活動を支える、持続可能な新たな財源確保の仕組みを模索する。

《今年度の主な取組》
- ❖5/27㈬　市内にあるHotel KOMORINUとの協議
- ❖9/26㈯　「アサヒ飲料子ども環境教室」　参加16人
- ❖11/26㈭　環境カウンセラーズぐんま研修会　参加予定30社

・持続可能な保全・活用の大きな後押しとして環境省の自然共生サイト認定に向けた申請手続きや基礎データの整備等の情報収集を行う。

《今年度の主な取組》
- ❖8/31㈪・9/1㈫　福島県磐梯町の視察・ヒアリング

■実施成果：

・市民向けの自然体験ツアーに加え、地元の民間企業を巻き込んだ研修等を実施し、活動の裾野を広げることができた。
・試行数は少ないものの企業研修のニーズを検証し、地域資源を活かした事業の継続性等を検討することができた。
・先進地視察を実施し、自然共生サイト申請担当者から直接ヒアリングを行うことで認定に向けた課題を整理することができた。







8．100年プロジェクト実施による変化

■参画者の声

市　　民	・水質調査や湿原の現状を知り、自分も保全の担い手の一人だという意識が芽生えた。 ・会議や維持管理トライアルへの参加を通じ、100年先へ残す大切さを実感した。
子　ど　も	・フィールドワークや生き物調べ、『茂林寺沼タイムス』を作るのがとても楽しかった。 ・茂林寺沼の自然の貴重さを学び、みんなにその魅力を発信するワクワク感を味わえた。
学校（教員）	・子どもたちが地域へ出向き、主体的に調べ発信する生きた探究的な学びが展開できた。 ・地域の宝である茂林寺沼湿原の環境を、総合的な学習の優れた教材として活用できた。
地域活動者	・キショウブバスターズなどでの外来種除去作業を通じ、多世代の協力体制が強まった。 ・100年会議での活発な議論により、持続可能な維持管理の具体的な道筋が見えてきた。
民間企業	・社員が保全作業や環境学習に汗を流し、地域社会や他団体との新たな連携が深まった。 ・廃ヨシ利活用など、環境保全と地域経済を両立させるサステナブルな視座が得られた。

■変化：

➡《里沼の現代での役割の変化・価値の再発見》

かつて「里沼」は生活・農業用水の供給源や生活に密着した一時的な資源利用の場(物資の生産の場)であった。現代においてはその役割が大きく変化し、都市化が進む現代社会において、**人間が自然とのつながりを取り戻し、心の豊かさや地域への誇り(シビックプライド)を育む精神的・教育的基盤の場(学びの場)へ**と価値観がシフトしている。

➡《民間企業が水環境の保全・活用に寄せる期待》

地元民間企業にとって、地域環境の保全は単なるＣＳＲ(企業の社会的責任)に留まらず、**豊かな水環境と歴史ある景観を守ることが、地域の魅力向上や定住促進、さらには優秀な人材の確保や企業の持続可能性に直結する重要な投資**と認識され始めている。

９．今後の課題

	今後の課題	国が取組・計画を認定する制度への期待
1	継続的な市民の関心の維持	**《市民の関心向上》** ・国が認めた重要な計画という信頼性が、市民の参加意欲やシビックプライドを高める強力なブースターとなる
2	利害関係者間の調整・合意形成	**《関係者調整の円滑化》** ・行政主導ではなく国の制度を背景に持つことで、土地所有者や関係機関との調整、利害調整がスムーズに進む環境が整う
3	活動資金の確保	**《民間支援獲得の波及》** ・国の公的なお墨付きを得ることで、民間企業からのＥＳＧ投資や協賛金、企業版ふるさと納税などの支援が格段に獲得しやすくなる

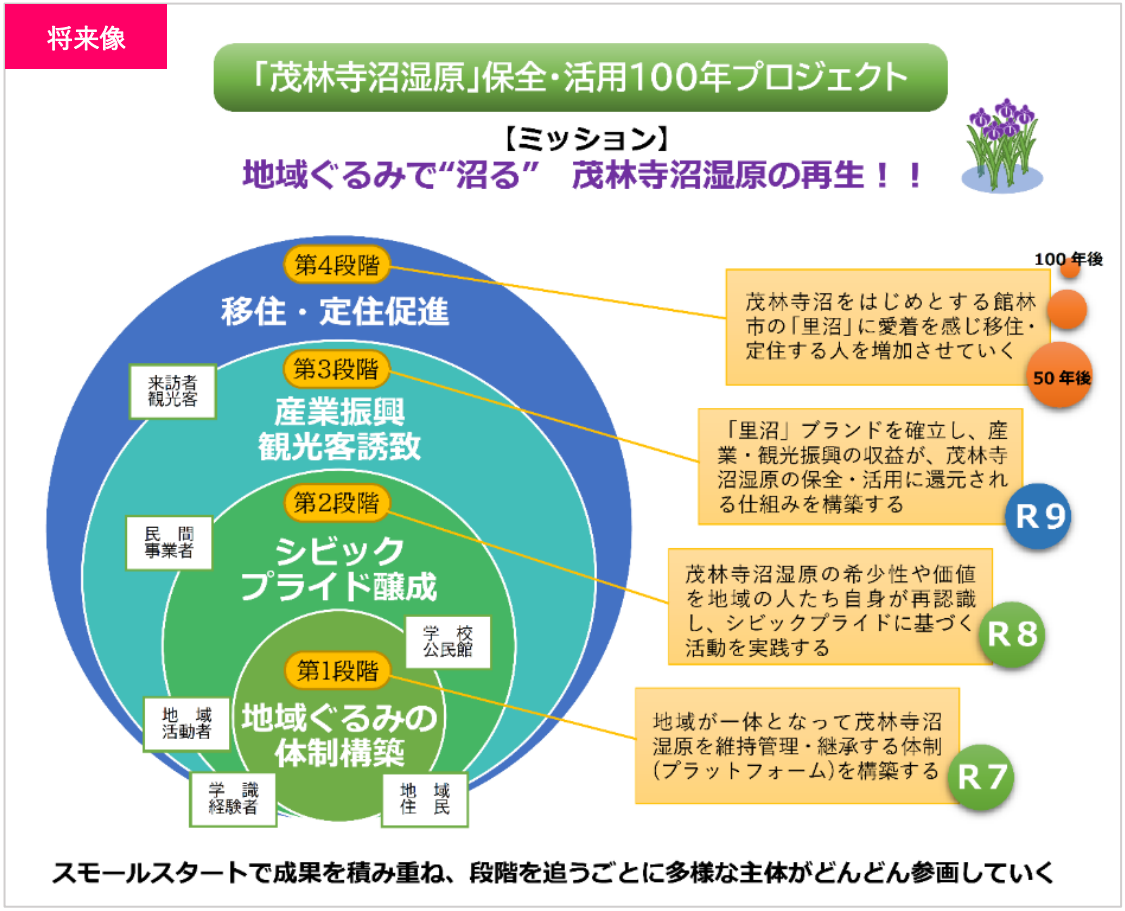
10. 将来展望

■100年プロジェクトの先へ

・「茂林寺沼湿原保全・活用１００年プロジェクト」にチャレンジさせていただき、**第１段階＝地域ぐるみでの体制構築、第２段階＝シビックプライド醸成に一定の成果**を得ることができた。

➡本プロジェクトの将来展望として、私たちは茂林寺沼湿原を「守るだけの場所」ではなく、**生物多様性の損失を食い止め、プラスに転じる「ネイチャーポジティブ」の実現の場へ**と昇華させる。地域の誰もが自然の恵みに感謝し、世代を超えて知恵を持ち寄り、学び・遊び・支え合う持続可能な地域社会のシンボルへ高めていく。

➡私たちはこの取組を**“館林モデル”として確立し、全国で同様の課題を抱える水辺や湿地の保全の道標となる**ことを目指す。



11. 環境省制度化への期待

結びに、本モデル事業のようなボトムアップの地域協働の取り組みが、一過性の補助事業に留まることなく、国の安定的な制度や法体系として定着していくことを強く期待いたします。

国と地域が一体となった持続可能な水環境保全の未来に向け、引き続きのご支援を切にお願い申しあげます。







ご清聴ありがとうございました。

茂林寺沼湿原 保全・活用
100年プロジェクト



館林市立資料館X
[館林市文化振興課]

100年プロジェクト
活動履歴サイト

―人と湿原の関わりを 結 び直す(里沼の再生)―